

38. 人形劇による子育て支援

人形劇団 ピンコピン

古賀 興三

1) 設立の経緯

人形劇団ピンコピンは、平成18年度「ふくおか高齢者大学」通称シルバーカレッジを受講した講座修了者を中心に平成19年1月に設立した。講座目的がボランティア活動に意欲のある人とされていた。ここでの講座演目は、「三匹のこぶた」「虹色のさかな」である。4人の指導者による、人形劇の紹介と台本選定人形作り・大道具・小道具の製作から配役決め・台詞の練習・録音等を含め7日間の研修であった。そして最後に、研修成果を発表する学習成果発表会が待ち受けていた。しかし、7日間の研修で本当に、お客様に見て頂ける人形劇ができるだろうか不安であった。そこは、高齢者である。長年培った知識や技術・経験を活かして成功させた。



「三匹のこぶた」の発表風景



「虹色のさかな」の発表風景

2) 初公演依頼

大学終了後、設立した「人形劇団ピンコピン」は、子育て支援を目的にボランティア活動を通して、地域社会に貢献し健康で生きがいのある活動する事にした。

素人集団「人形劇団ピンコピン」は毎月2回福岡市中央市民センター於いて、第2水曜日・第4水曜日の定例会とし、シニアカレッジで学んだ演目「三匹のこぶた」「虹色のさかな」を積極的に練習を重ねた。当然、団員同士による試行錯誤が始まった。次第に個人々の得意とするものが見えてきた。台詞が上手い。絵を描くのが非常に上手。カレッジに参加する前から人形を手づくりで製作していた人がいた。練習にも力が入ってきた。そんな時、人形劇の公演依頼が来た。

「人形劇団ピンコピン」の第1回目の公演である。公民館主催の子どもたちへの公演は、舞台組立から人形劇開始まで全員が緊張していた。救われたのは、子どもたちが大きな目をキラリと輝かせ、楽しんでくれたことです。



公演「三匹のこぶた」風景



公演「虹色のさかな」風景

3) 活動概要

平成19年の第1回公演から7年目を迎えた。公演訪問先は口コミやリピーターが多く公民館・子育てサロン・留守家庭子ども会・幼稚園・保育園そして、今は老人介護施設等からの派遣依頼も多くなってきた。公演先は、初年度平成19年は7件です。それが平成24年度は37件となり、それでももっと、子育てされているお母さん達に、人形劇を知って頂く為に、公民館等への広報活動を開始した。その結果、今年度平成25年は9月時点で35回を数え、公演回数は通算135回となった。観劇してくれた子ども達も、大幅に増加し通算4,474人となった。演目は現在20演目に増えている。

特に、今年平成25年夏休みは留守家庭子ども会からの公演依頼が多く、猛暑の中での大奮闘であった。



保育園での公演風景



新作「空を飛びたいな」

4) まとめ

平均年齢73歳の高齢者団員は「元気だから人形劇を演じているのではありません。人形劇を演じることで元気になるのです」と言います。しかし、高齢者の健康にも限界があります。若いボランティアの加入と後継者の育成が急務です。少子高齢化が進む中、多くの若いお母さんが苦勞されている現状を考えると、どんな小さい場所でも「笑いと喜び」を与える人形劇を公演して行く所存です。

この度、大同生命厚生事業団様からの助成金を頂き誠に有難うございました。

5) 決算報告書

収入	大同生命厚生事業団 シニアボランティア活動助成金	100,000 円
支出	「機材購入費」レコーダ/カセットデッキ CC-222SLmk II	55,000 円
	ミキサー DJX900USB PRO	24,200 円
	「交通費」 車両活動費	29,000 円
		円
		円
	計	108,200 円